



研究者名※	高梨 博子 TAKANASHI Hiroko	学位※	Ph. D (University of California, Santa Barbara)
所属※	文学部 英文学科	職名※	教授
連絡先	takanashi@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	<a href="https://researchmap.jp/hiroko-takanashi">https://researchmap.jp/hiroko-takanashi</a>		
研究分野※	語用論、談話研究、言語人類学、相互行為の社会言語学		
研究キーワード※	スタンス、フレーミング、対話性、定型性、観光のエスノグラフィー		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会・文化的場の共創と言語使用—母語話者視点による語用論理論の構築(科学研究費・基盤 B、研究分担者、2011~2013年度)</li> <li>・「場」の語用論モデルの構築—母語話者視点による通言語的実態分析に基づいて(科学研究費・基盤 B、研究分担者、2015~2017年度)</li> <li>・文法の動的体系性を探る(1):文法の多重性と分散性(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究、共同研究員、2017~2019年度)</li> <li>・訪日外国人旅行者との対話モデルの構築—対話原理に基づく意味共有と価値創造の体系化(科学研究費・基盤 C、研究代表者、2018~2020年度)</li> <li>・日本女子大学の草創期における欧米思想の受容—女性の自立と平和の結びつきをめぐる(日本女子大学総合研究所研究課題、研究代表者、2018~2020年度)</li> <li>・日常の相互行為における定型性—話し言葉を基盤とした言語構造モデルの構築(科学研究費・基盤 B、研究協力者、2018~2020年度)</li> <li>・ポストコロナ時代の観光における対話的交流モデルの国際的体系化(科学研究費・基盤C、研究代表者、2021~2023年度)</li> <li>・日本女子大学の草創期における欧米思想の受容—女性の自立と平和をめぐる卒業生たちの活躍(日本女子大学総合研究所研究課題、研究分担者、2021~2023年度)</li> </ul>		
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回 ノースカロライナ日本クイズ大会 (The First Annual North Carolina Japan Quiz Bowl) (於ノースカロライナ大学チャペルヒル校) 審査員 (2006年)</li> <li>・「言語と人間」研究会 第34回 春期セミナー、ワークショップ「データの文字化と分析の手法」講師 (2008年3月)</li> <li>・日本女子大学 生涯学習センター 後期公開講座「多様化することばの諸相—アメリカ英語を通して見るアメリカ社会」講師 (2014年10月)</li> <li>・日本女子大学 生涯学習センター 前期公開講座「ユーモアを科学する—日常や観光における対話から読み解く」講師 (2018年5月)</li> <li>・運輸総合研究所 第59回 運輸政策セミナー講演「インバウンド観光と対話・コミュニケーション」(2019年3月)</li> <li>・小田原・箱根 SGGクラブ 12月例会 研修会 招待講演「インバウンド旅行者との対話・コミュニケーション—共感、そして、楽しみの創出」(2019年12月)</li> <li>・第3回「女性のためのリカレント教育推進協議会」シンポジウム「コロナ時代の女性の就労とリカレント教育」司会 (2021年12月)</li> <li>・文部科学省 委託事業「令和3年度 女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業」における普及啓発事業「ポスト・コロナにおける企業とのコラボレーションによるリカレント教育普及啓発事業」、「企業とのコラボレーションによるシンポジウム」司会 (2021年12月)</li> <li>・文部科学省 委託事業「令和3年度 女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業」における普及啓発事業「ポスト・コロナにおける企業とのコラボレーションによるリカレント教育普及啓発事業」、全国フォーラム「コロナ時代の女性の教育と就労支援」司会 (2022年1月)</li> <li>・東京中小企業投資育成株式会社 投資育成セミナー 招待講演「ダイバーシティの推進と人材採用」(2022年9月)</li> <li>・小田原・箱根 SGGクラブ 1月例会 研修会 招待講演「国内外都市における 観光の取組—対話を通じた都市の魅力の創出」(2023年1月)</li> <li>・第4回「女性のためのリカレント教育推進協議会」シンポジウム「アントレプレナーとリカレント」協議会参加大学による2022年度活動報告 (2023年3月)</li> </ul>		

	<p>・京都府「京都学び直し体感フェア 2023」招待講演「日本女子大学におけるリカレント教育の取り組み」(2023年8月)</p> <p>・京都府「京都学び直し体感フェア 2023」パネルディスカッション「大学におけるリカレント教育の推進について」パネリスト(2023年8月)</p>
受賞歴	<p>・アメリカ言語学会(LSA) Linguistics Institute Student Fellowship(1995年)</p> <p>・カリフォルニア大学 Post-Doctoral Faculty Fellowship(2004年)</p>

研究領域	<p>語用論、社会言語学、言語人類学</p>	<p>(SDGs)</p> 
------	------------------------	---

研究テーマ※	観光のエスノグラフィー、対話とことば・コミュニケーション
--------	------------------------------

<p>概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)</p>	<p>「訪日外国人旅行者との対話」について、バフチンの対話原理および対人関係の関連理論を応用して、対話の本質である「意味の共有」と「価値の創造」の構造を解析・体系化し、オンライン観光を含めた「ポストコロナ時代の観光における対話的交流モデル」を構築するとともに、その国際的体系化を目指す研究を進めている。このため、日本、欧米、アジア、オセアニア等の国においてエスノグラフィーの手法によるフィールドワークを実施し、観光客との対話の実態を明らかにするとともに、対話力の質的向上と相互理解の深化のあり方、ならびにボランティア活動を含めた地域協働による観光の基盤構築のあり方をとりまとめる。</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大により施行されていた移動制限が緩和され、人と繋がることの大切さが再認識される現在、「観光の概念」が問い直されている。こうした中で、「凝縮された時空間における、異質な他者・文化との触れ合い」という対話の特質をとらえ、国内外の地方都市でのフィールドワーク実施により、ことばや身体を通じたコミュニケーションをベースとする関係主体間の対話のあり方を国際比較分析している。これにより、観光客との現場での対話、地域協働による観光の基盤構築のモデルをとりまとめ、2025年の大阪万博開催を含めたポストコロナの時代に向けて、学会発表やシンポジウムの開催などを通じて、大学・政府・自治体等の関係者への積極的な発信を目指している。</p>
--	---

<p>本研究関連 特許・論文等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Hiroko Takanashi, "Stance Differential in Parallelism: Dialogic Syntax of Argumentation in Japanese" <i>Pragmatics in 2000: Selected Papers from the 7th International Pragmatics Conference, Vol. 2</i>, pp. 570–582, 2001年</li> <li>・Hiroko Takanashi, "Orthographic Puns: The Case of Japanese Kyōka" <i>International Journal of Humor Research, Vol. 20, No. 3</i>, pp. 235–259, 2007年</li> <li>・Hiroko Takanashi, "The Negotiation of Face in Humor Directed to Self and Extended Self" 日本女子大学 英語英文学会『英米文学研究』第43号, pp. 119–137, 2008年</li> <li>・Hiroko Takanashi, "Investment of Meaning in Discourse: Intertextuality through Resonance" 『日本英語学会 第27回大会 研究発表論文集』pp. 277–286, 2010年</li> <li>・Hiroko Takanashi and Joseph Sung-Yul Park, "Reframing Framing: Interaction and the Constitution of Culture and Society" <i>Pragmatics, Vol. 21, No. 2</i> (Special Issue), 2011年</li> <li>・Joseph Sung-Yul Park and Hiroko Takanashi, "Introduction: Reframing Framing: Interaction and the Constitution of Culture and Society" <i>Pragmatics, Vol. 21, No. 2</i>, pp. 185–190, 2011年</li> <li>・Hiroko Takanashi, "Complementary Stylistic Resonance in Japanese Play Framing" <i>Pragmatics, Vol. 21, No. 2</i>, pp. 231–264, 2011年</li> <li>・Hiroko Takanashi, "Multifunctionality of the Japanese Simile Marker <i>Mitaina</i> : Its Evolution to an Interactional Modal Particle" 日本女子大学 英語英文学会『英米文学研究』第49号, pp. 25–60, 2014年</li> <li>・高梨博子, 「遊び心での即興劇共演のダイナミズム—スピーチスタイルの響鳴とそのメカニズムの分析」, 『コミュニケーションのダイナミズム—自然発話データから』pp. 105–137, ひつじ書房, 2016年</li> </ul>
-------------------------	---

- ・高梨博子, 「遊びのフレームにおける間主観的個性の形成に関する考察—スタンステーキングの視点から」, 『社会言語科学』第 19 卷 第 1 号 特集「メタ・コミュニケーション—社会言語科学における共通基盤を求めて」, pp. 103–117, 2016 年
- ・高梨博子, 「インバウンド・コミュニケーションにおけるスタンステーキングの分析—バフチンの対話原理の視点から」, 『社会言語科学』第 40 回大会 発表論文集 pp. 72–75, 2017 年
- ・Hiroko Takanashi, “Stance” *Handbook of Pragmatics: 21st Annual Installment*, pp. 173–199, John Benjamins, 2018 年
- ・高梨博子, 「インバウンド旅行者との authentic な対話的交流に向けて」, 『日本国際観光学会 第 22 回全国大会梗概集』 pp. 34–35, 2018 年
- ・Hiroyuki Nakano and Hiroko Takanashi, “The Interactive Creation of Local Identity in Tourist Visiting Cities: A Comparative Study of Nara, Bologna, and Santa Barbara” *Proceedings of The Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol. 12*, 2019 年 <http://www.easts.info/on-line/proceedings/vol.12/pdf/PP2351.pdf>
- ・中野宏幸, 高梨博子, 共著, 「日米アジアの観光都市におけるインバウンド旅行者との対話的交流による地域アイデンティティの形成に関する研究」, 『交通学研究』第62号, pp. 69–76, 2019年
- ・中野宏幸, 高梨博子, 共著, 「観光地域のアイデンティティのミクロ的基礎とマクロとの相互循環—海外都市の「街の再発見のアプローチ」に着目して」, 『2019年日本交通学会研究報告会予稿集』 pp. 131–138, 2019年
- ・Hiroko Takanashi, “Playful Naming in Playful Framing: The Intertextual Emergence of Neologism” *Bonding through Context: Language and Interactional Alignment in Japanese Situated Discourse*, pp. 239–264, John Benjamins, 2020年
- ・高梨博子, 「アイデンティティ・ワークとスタンスの多層性—からかいのプレイから」, 『動的語用論の構築へ向けて』第2巻, pp. 148–175, 開拓社, 2020年
- ・高梨博子, 「観光場面の対話におけるスタンス行為」, 『日本英語学会 第37回大会 研究発表論文集』 pp. 164–167, 2020年 [elsj.jp/wp-content/uploads/JELS-No37.pdf](https://www.elsj.jp/wp-content/uploads/JELS-No37.pdf)
- ・中野宏幸, 高梨博子, 共著, 「対話原理に基づくインバウンドディスコースにおける視座の分析—ボランティアガイド活動におけるホストとゲストの行動に着目して」, 『第35回日本観光研究学会全国大会学術論文集』 pp. 129–132, 2020年
- ・中野宏幸, 高梨博子, 共著, 「インバウンド観光と対話・コミュニケーション」, 『運輸政策研究』Vol. 22, pp. 157–163, 2020年 [https://www.jttri.or.jp/members/journal/assets/no78\\_event02.pdf](https://www.jttri.or.jp/members/journal/assets/no78_event02.pdf)
- ・高梨博子, 「観光の詩的パフォーマンス: 日米欧の都市の事例から」, 愛知大学 人文社会学研究所 主催シンポジウム報告書『ことばの詩 生活の詩 社会の詩—日常の中のポエティクス』 pp. 41–54, 2020 年 [https://aichiu.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=10301&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=17](https://aichiu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=10301&item_no=1&page_id=13&block_id=17)
- ・高梨博子, 「日本女子大学校とシカゴ大学で学んだ田中孝子」, 日本女子大学総合研究所『日本女子大学総合研究所ニュース』No. 31, pp. 30–33, 2020年
- ・中野宏幸, 高梨博子, 共著, 「外国人旅行者へのガイドツアーや応接におけるユーモアのある対話の分析—ホストとゲストの遊び心に着目して」, 『第36回日本観光研究学会全国大会学術論文集』 pp. 121–125, 2021年
- ・高梨博子, 中野宏幸, 共著, 「渋沢栄一にみる異文化接触とコミュニケーション」, 『日本国際観光学会第25回全国大会梗概集』 pp. 36–37, 2021年
- ・Hiroko Takanashi, “Emergent Stance in Walking Tour Discourse in Nara: The Intersubjective Construction of Interculturality” *Language and Intercultural Communication in Tourism: Critical Perspectives*, pp. 206–234, Routledge, 2022 年
- ・高梨博子, 「観光のエスノポエティクス—並行性と響鳴による詩的実践」, 『ポエティクスの新展開—プルリモーダルな実践の詩的解釈に向けて』 pp. 161–188, ひつじ書房, 2022 年
- ・高梨博子, 「旅行者視点の調査手法を求めて」(コラム), 『ポエティクスの新展開—プルリモーダルな実践の詩的解釈に向けて』 pp. 189–190, ひつじ書房, 2022 年
- ・Hiroko Takanashi, “Language Reproduction and Coordinated Agency through Resonant Play” *East Asian Pragmatics, Vol. 7, No. 3*, pp. 395–423, 2022 年
- ・Hiroyuki Nakano and Hiroko Takanashi, “Dialogic Formation of Tourism Strategies in Urban Renaissance Cities: Implications from Cases in Berlin, Budapest, and Santa Barbara” *Journal of The Eastern Asia Society for Transportation Studies* 14, pp. 1253–1269, 2022 年
- ・中野宏幸, 高梨博子, 共著, 「クロノトポスの概念の活用による都市形成と対話的交流の分析」, 『第 37 回日本観光研究学会全国大会学術論文集』 pp. 271–275, 2022 年

- ・高梨博子, 「スタンスと響鳴の観光コミュニケーションへの応用」, 日本語用論学会『Newsletter』第 48 号「語用論研究の新潮流 (7)」 pp. 2-4, 2022 年
- ・高梨博子, 「20世紀初頭の田中孝子の足跡—シカゴ大学の社会学、成瀬仁蔵、渋沢栄一との関連から」, 日本女子大学総合研究所『総合研究所紀要』第24号「日本女子大学の草創期における欧米思想の受容—女性の自立と平和の結びつきをめぐる」 pp. 98-108, 2022年
- ・Hiroko Takanashi, “The Utterance-Final *Tari Site* Construction in Interaction: A General Extender as a Play Stance Marker” *Journal of Japanese Linguistics*, Vol. 39, No. 1, pp. 81-104, 2023 年



共同研究・外部機関との連携への期待

ベルリン、ドレスデン、ミュンヘン、ウィーン、プラハ、ボローニャ等の海外の自治体関係者、カルフォルニア大学サンタバーバラ校等の海外の大学研究者とも意見交換をおこない、連携協力しながら研究を実施していくこととしている。